

ドローンでケイ酸を試行散布

水稻の葉面から吸収させ、即効性を期待

2020年7月2日(木)

大津市真野普門の農事組合法人真野生産組合の水稲ほ場 57 アールで、米の収量向上のためケイ酸補給を目的に葉面散布を試行しました。大津北営農経済センターの田中章吾センター長が、全国で先駆けドローンを用いて行いました。

ケイ酸の散布は、葉の受光態勢を良くして光合成の力を高め、登熟率の向上や心白粒・乳白粒の割合を低下させるなど、稲作にとって重

要な要素となります。また近年、高温によって根からの肥料吸収率が減少している可能性があり、葉面に散布することで効果の即効性が期待できます。

当 JA では、ドローンを1年間有効に利用することを目指しており、同ほ場では出穂期にもう一度ケイ酸の散布を予定しています。



(農)真野生産組合の水稲圃場で、米の収量向上のためケイ酸補給を目的にドローンで葉面散布を試行しました。